

岩手県文化財調査報告書第61集

東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書

—XII—

(石田遺跡)

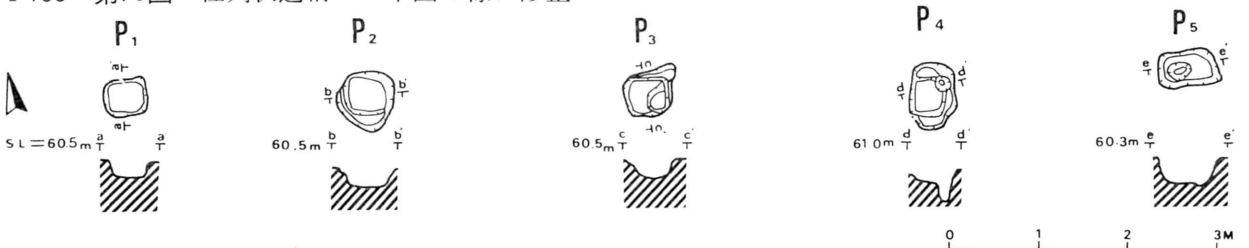
昭和56年3月

岩手県教育委員会
日本道路公団

正 誤 表

頁	行	誤	正
10	第5図中	V4溝	削除
25	第13図	「土器A」が欠落	煙道と壁の境界にあるのが土器A
25	第13図	土層注記、66よりシルト部分が多い	削除
26	第14-1図	P6'・P9'の番号が欠落	P6の下方部分がP6'・P9は東壁中央部 に にある
30	5	内湾	内湾
41	第19-3図	土器番号17, 18	17→13 18→17に各々訂正
50	第24-1図	SPA-SPA上, 遺構断面図(南北)	東西
55	第26-1図	土層注記中, (川、黄色…	黒点部分削除
57	第26-3図	土器番号No. 16が欠落	No. 15の下
58	下6	Cj ₁ 竪穴住居跡	Ci56竪穴住居跡
93	19	カマド ₁ 底面	カマド ₁ 底面
97	2~3	写真図版 Pに記載した	削除
171	7	第82-2・3図	第81-2・3図
174	11	第85図	第84図
176	下7	第86図	第85-1図
179	8	第86図No 8~15. 第87図	第85-1図No 8~15. 85-2図
197	16	No. 119	No. 109
199	第100-3図	遺構なし遺物実施図	遺物なし遺物 実 測図
217	20~21	間×2間×5間	2間×5間
233	5	Ⅲ群中	Ⅱ群中
236	3	A-a-口	A-b-口
236	下6	A-b	B-b
247	第38表	表中VIとある	IVに訂正
253	6	伴明	判明
262	19	Ⅱ期-(2)群	Ⅲ期-(2)群
299	第53表	[註] Wwuestite (FeO)	Wuestite (FeO)
写真図版13		Cd12竪穴住居跡	Cd12竪穴状遺構
写真図版73		Dd03旧期竪穴住居跡	Ddo3竪穴住居跡
写真図版77		写真番号31	131

PI55 第73図 柱列状遺構 下図の様に修正



序

地域開発に伴う道路など交通網の整備事業は、社会の進歩発展からくる現代の必然的な要請であり、本県においても、そのための建設事業が多く計画・実施されております。しかしながら私達には祖先が長い歴史の中で創造し、伝えてきた貴重な文化遺産を保護するとともに新たな文化創造の糧として活用していく責務があります。

国土開発計画に基づいて県内を南北に縦貫してつくられる東北自動車道は、産業経済開発の大動脈として多方面からの期待をになう国家的な大事業であり、一関・西根インター間が、すでに供用され、現在は更に秋田・青森県境へと工事が進められております。

岩手県教育委員会は、この供用区間に関係した99遺跡について、日本道路公団仙台建設局の委託によって、昭和47年から昭和53年までの7年間にわたって発掘調査を実施し、その整理と報告書の作成を、昭和53年度から4ヵ年計画で実施しております。

本報告書は、東北縦貫自動車道関係埋蔵文化財調査報告書の第XII分冊目として、水沢市石田遺跡の、調査結果をとりまとめたものであります。

石田遺跡は、奈良時代から平安時代にかかる大規模な集落跡であることが明らかになり、古代における集落の様相と、その変遷過程が判明する等貴重な成果を提示いたしております。

この報告書が、記録保存の成果として社会教育や学術研究の場に役立つことを切に願いたします。

ここに、調査について御援助・御協力をいただいた地元教育委員会はじめ関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

昭和56年3月

岩手県教育委員会

教育長 新 里 盈

例 言

1. 本書は、東北縦貫高速自動車道関係遺跡発掘調査報告書第Ⅻ分冊として、水沢市寺領に所在する石田遺跡について作成したものである。

2. 発掘調査は日本道路公団より委託を受け、岩手県教育委員会が主体となり、昭和49年10月から昭和50年6月に工事用道路その他部分を、昭和50年8月18日から同年12月17日以内に本線部北半地域、昭和51年4月5日から、同年7月17日以内に本線部南半地域について行なった。発掘調査面積は、約7,800㎡に及んでいる。

なお、発掘調査は勝股国夫、相原康二、八重樫良宏、三浦謙一、高橋与右衛門、鈴木明美、菊地茂樹、小野寺民枝、松本 洋が担当し、瀬川司男がこれを総括した。

3. 調査および整理にあたっては、次の方々と機関のご教示を賜わった。(敬称略、順不同)

板橋 源 (県文化財保護審議員、岩大名誉教授)	菊地 徹男 (早稲田大学)
草間 俊一 (県文化財保護審議員、岩大教授)	水沢市教育委員会
司東 真雄 (県文化財保護審議員、北上市教委)	北上市教育委員会
林 謙作 (北海道大学助教授)	(財)岩手県埋蔵文化財センター
佐久間 豊 (千葉県教育庁文化課)	宮城県教育庁文化財保護課
高橋 信雄 (岩手県立博物館学芸員)	東北歴史資料館

4. 資料の鑑定・分析については、次の方々と機関のご教示、ご協力を賜わった。

(敬称略、順不同)

石 材 鑑 定	佐藤 二郎 (岩手県立大船渡農業高校)
種 子 鑑 定	村井 三郎 (県文化財保護審議員)
獣 骨 鑑 定	兼松 重任 (岩手大学農学部獣医学科助教授)
材 質 鑑 定	早坂松次郎 (岩手県木炭協会経営指導員)
陶 器 鑑 定	檜崎 彰一 (名古屋大学)

土 器 胎 土 分 析	照井 一明 (岩手県立種市高校)・岩手県工業試験場
鉄 成 分 分 析	岩手県工業試験場
カーボンディテング	日本アイソトープ協会

5. 本書に掲載した地形図は、建設省国土地理院発行の5万分の1地形図、20万分の1地形図を使用したものである。

6. グリッド配置図は、日本道路公団作成による「東北高速道計画」図を使用し、遺跡、遺物

等の方向表示は同図の第10系座標の北方向である。

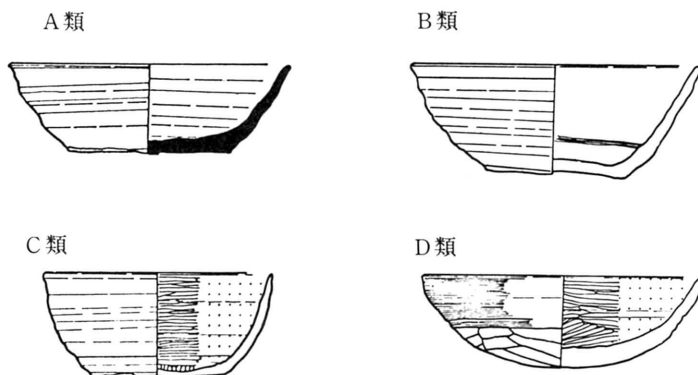
7. 遺跡における層相の色調観察は、小山、竹原編著「新版 標準土色帳」日本色研事業(株)を使用した。
8. 遺物、写真、実測図等の資料は、岩手県教育委員会事務局文化課において保管している。但し、遺物の一部は岩手県立博物館に移管し展示されている。
9. 調査主体者 岩手県教育委員会
日本道路公団
10. 調査担当者 岩手県教育委員会事務局文化課
11. 本書の執筆・編集は八重樫良宏が総括したが、地形概観の執筆は相原康二、狩野敏男が担当し、また、参考資料の(1)、(2)、(3)、土器胎土分析結果並に江別式土器に関わる執筆は相原康二が担当している。

挿図および写真図版については、鈴木明美、菊地茂樹、相星輝子、後藤裕子の協力を得て作成した。

なお、空中写真はアジア航測株式会社の撮影によるものである。

12. 挿図の縮尺は遺構・遺物とも 1/3 を原則としているが、溝遺構や遺物の一部にあっては率が異なる場合もある。
13. 坏型土器 A・B・C・D の各類については、本文第Ⅳの 2 項を参照されたい。これらの坏は図版上では、下記の如くに示されている。

- | | | | |
|-----|---------------|----------|---------------------------|
| A 類 | 断面を黒塗りしている。 | } —ロクロ使用 | ※須恵器の甕型土器の断面も
黒塗りしている。 |
| B 類 | A・C・D 類以外のもの。 | | |
| C 類 | 内面に点をつけている。 | | |
| D 類 | ク | —ロクロ不使用 | |



例言 坏型土器・凡例

目 次

序 文

1. 調査の経過
2. 調査の方法について
3. 整理について

本 文

- I 水沢、金ヶ崎地区概観と立地…………… 3
 1. 地形概観…………… 3
 2. 遺跡の立地について…………… 7
- II 層序と土質…………… 9
- III 発見された遺構と遺物…………… 10
 1. 竪穴住居跡…………… 10
 2. 竪穴状遺構…………… 129
 3. 掘立柱建物跡…………… 132
 4. 諸ピット…………… 142
 5. 溝・溝状遺構…………… 156
 6. 表採・他遺物…………… 195
- IV 遺構と出土遺物の考察・まとめ……………
 1. 発見された遺構について…………… 200
 - (1) 竪穴住居跡…………… 200
 - (2) 掘立柱建物…………… 210
 - (3) 大 溝…………… 219
 2. 発見された遺物について…………… 222
 - (1) 奈良・平安時代の遺物…………… 222
 - A. 坏型土器について……………
 - (a) 分類基準…………… 222
 - (b) 分類とその結果…………… 232
 - (イ) D 類…………… 232
 - (ロ) A・B・C 類…………… 234
 - B. 甕型土器について…………… 238
 - (a) 分類基準…………… 238

(b) 分類結果…………… 245

C. その他出土遺物について…………… 248

D. 各期の伴出遺物等について

— 小まとめ —…………… 250

(2) その他遺物…………… 254

(a) 弥生式土器片について…………… 254

(b) 江別式土器片について…………… 255

V まとめ…………… 257

1. 本遺跡の時期区分と編年観…………… 257

2. 参考資料…………… 264

(1) 岩手県南部における古代の土器
群編年試案…………… 264

(2) 岩手県南部を中心とした古代住
居跡変遷…………… 269

(3) 集落の構成要素とそれに関わる
予察…………… 273

VI 鑑定、分析結果…………… 277

1. 土器胎土分析結果

岩石学的方法による分析結果…………… 277

分析結果に関する若干の問題点…………… 295

2. ¹⁴C 測定結果…………… 295

3. 獣骨の鑑定結果…………… 296

4. 植物遺体鑑定結果(ノモモの種子)…………… 297

5. 材質鑑定結果…………… 297

6. 土器片蛍光X線分析結果…………… 298

7. 鉄製品・鉄滓分析結果…………… 299

写真図版

岩手県教育委員会事務局文化課職員一覧

挟みこみ図面(遺構配置図)

插图目次

第1图 遺跡分布図(東北縦貫道関係)		第20图-1 Cb21 竪穴住居跡実測図	43
第2图 遺跡地形並に調査範囲図	2	第20图-2 Cb21 竪穴住居跡出土遺物実測図	44
第3图-1・2 地形区分・遺跡分布図		第21图-1 Cc53 竪穴住居跡実測図	45
第4图 層序模式図	9	第21图-2 Cc53 竪穴住居跡出土遺物実測図	45
第5图 Bb24 竪穴住居跡実測図	10	第22图-1 Cf77 竪穴住居跡実測図	46
第6图-1 Bb30 竪穴住居跡実測図	11	第22图-2 Cf77 竪穴住居跡出土遺物実測図	47
第6图-2 Bb30 竪穴住居跡出土遺物実測図	12	第23图-1 Cg06 竪穴住居跡実測図	48
第7图-1 Bc24 竪穴住居跡実測図	12	第23图-2 Cg06 竪穴住居跡出土遺物実測図	49
第7图-2 Bc24 竪穴住居跡出土遺物実測図	13	第24图-1 Cg56 竪穴住居跡実測図	50
第8图-1 Bc68 竪穴住居跡実測図	14	第24图-2 Cg56 竪穴住居跡出土遺物実測図	52
第8图-2 Bc68 竪穴住居跡出土遺物実測図	15	第25图-1 Ch21 竪穴住居跡実測図	53
第9图 Bd36 竪穴住居跡出土遺物実測図	16	第25图-2 Ch21 竪穴住居跡出土遺物実測図	54
第10图-1 Bd71 竪穴住居跡実測図	16	第26图-1 Ci30 竪穴住居跡実測図	55
第10图-2 Bd71 竪穴住居跡出土遺物実測図	18	第26图-2・3 Ci30 竪穴住居跡出土遺物実測図	56 57
第11图-1 Bd80 竪穴住居跡実測図	19	第27图-1 Ci56 竪穴住居跡実測図	59
第11图-2 Bd80 竪穴住居跡出土遺物実測図	20	第27图-2 Ci56 竪穴住居跡出土遺物実測図	60
第12图-1 Be50 竪穴住居跡実測図	21	第28图-1 Da15 竪穴住居跡実測図	60
第12图-2 Be50 竪穴住居跡出土遺物実測図	23	第28图-2 Da15 竪穴住居跡出土遺物実測図	61
第13图 Bf30 竪穴住居跡実測図	25	第29图-1 Da21 竪穴住居跡実測図	62
第14图-1 Bh03 竪穴住居跡実測図	26	第29图-2 Da21 竪穴住居跡出土遺物実測図	63
第14图-2 Bh03 竪穴住居跡出土遺物実測図	28	第30图-1 Da30 竪穴住居跡実測図	63
第15图-1 Bh68 竪穴住居跡実測図	29	第30图-2 Da30 竪穴住居跡出土遺物実測図	65
第15图-2 Bh68 竪穴住居跡出土遺物実測図	29	第31图-1 Da56 新期竪穴住居跡実測図	66
第16图-1 Bh77 竪穴住居跡実測図	30	第31图-2 Da56 新期竪穴住居跡出土遺物実測図	67
第16图-2 Bh77 竪穴住居跡出土遺物実測図	31	第31图-3 Da56 新、旧、重複竪穴住居跡実測図	68
第17图 Bi27 竪穴住居跡実測図	32	第32图-1 Da56 旧期竪穴住居跡実測図	69
第18图-1 Bi53 竪穴住居跡実測図	34	第32图-2・3 Da56 旧期竪穴住居跡出土遺物実測図	71 73
第18图-2 Bi53 竪穴住居跡出土遺物実測図	35	第33图-1 Da68 竪穴住居跡実測図	74
第19图-1 Bj65 竪穴住居跡実測図	39	第33图-2 Da68 竪穴住居跡出土遺物実測図	75
第19图-2・3 Bj65 竪穴住居跡出土遺物実測図	40 41	第34图-1 Da74 竪穴住居跡実測図	76

第34図-2 Da74竪穴住居跡出土遺物実測図	77	第49図-3 Ee30竪穴住居跡出土遺物実測図	125
第35図-1 Db33竪穴住居跡実測図	78	第50図-1 Eg09竪穴住居跡実測図	127
第35図-2 Db33竪穴住居跡出土遺物実測図	79	第50図-2 Eg09竪穴住居跡出土遺物実測図	128
第36図-1 Dc71竪穴住居跡実測図	80	第51図 Bg21竪穴状遺構実測図	129
第36図-2 Dc71竪穴住居跡出土遺物実測図	80	第52図-1 Cd12竪穴状遺構実測図	129
第37図-1 Dd03竪穴住居跡実測図	82	第52図-2 Cd12竪穴状遺構出土遺物実測図	130
第37図-2・3・4Dd03竪穴住居跡出土遺物実測図	83 88	第53図-1 Ed12竪穴状遺構実測図	131
第38図-1 Dd50竪穴住居跡実測図	90	第53図-2 Ed12竪穴状遺構出土遺物実測図	132
第38図-2 Dd50竪穴住居跡出土遺物実測図	91	第54図 Ca03掘立柱建物実測図	133
第39図-1 Df59竪穴住居跡実測図	92	第55図 Ca50掘立柱建物実測図	134
第39図-2 Df59竪穴住居跡出土遺物実測図	94	第56図-1 Ce03掘立柱建物実測図	135
第40図-1 Dg09新期竪穴住居跡実測図	95	第56図-2 Ce03掘立柱建物出土遺物実測図	137
第40図-2 Dg09新期竪穴住居跡出土遺物実測図	96	第57図 Ch53掘立柱建物実測図	138
第41図-1 Dg09旧期竪穴住居跡実測図	97	第58図-1 Da09掘立柱建物実測図	139
第41図-2・3 Dg09旧期竪穴住居跡出土遺物実測図	99 101	第58図-2 Da09掘立柱建物出土遺物実測図	140
第42図-1 Dh56竪穴住居跡実測図	103	第59図-1 Dh12掘立柱建物実測図	141
第42図-2 Dh56竪穴住居跡出土遺物実測図	104	第59図-2 Dh12掘立柱建物出土遺物実測図	142
第43図 Di09竪穴住居跡実測図	104	第60図 Ba50ピット実測図	142
第44図-1 Dj18竪穴住居跡実測図	106	第61図-1 Be03ピット実測図	143
第44図-2 Dj18竪穴住居跡出土遺物実測図	107	第61図-2 Be03ピット出土遺物実測図	144
第45図-1 Dj27竪穴住居跡実測図	108	第62図 Bi53竪穴住居跡内ピット群実測図	145
第45図-2 Dj27竪穴住居跡出土遺物実測図	109	第63図 Ca12ピット実測図	146
第46図-1 Ea50竪穴住居跡実測図	110	第64図-1 Ca24ピット実測図	147
第46図-2 Ea50竪穴住居跡カマド燃焼部側壁平面 図	111	第64図-2 Ca24ピット出土遺物実測図	147
第46図-3・4・5 Ea50竪穴住居跡出土遺物実測図	114 116	第65図-1 Ce21ピット実測図	147
第47図-1 Ec27竪穴住居跡実測図	117	第65図-2 Ce21ピット出土遺物実測図	148
第47図-2 Ec27竪穴住居跡出土遺物実測図	119	第66図 Cg68ピット実測図	149
第48図-1 Ec36竪穴住居跡実測図	118	第67図-1 Ch74ピット実測図	149
第48図-2 Ec36竪穴住居跡出土遺物実測図	122	第67図-2 Ch74ピット出土遺物実測図	150
第49図-1 Ee30竪穴住居跡実測図	123	第68図 Cブロックピット群実測図	151
第49図-2 Ee30竪穴住居跡カマド断面図	123	第69図 Da21ピット実測図	152
		第70図 Dh12ピット実測図	152

第71図	Di50ピット実測図	153	第96図	Cc12溝状遺構実測図	192
第72図-1	Di59ピット実測図	154	第97図	Cf56溝状遺構実測図	193
第72図-2	Di59ピット出土遺物実測図	155	第98図	Dj15方形遺構実測図	193
第73図	柱列状遺構実測図	155	第99図-1	表採遺物実測図	194
第74図	溝・溝状遺構配置図	156	第99図-2	表採遺物実測図	195
第75図-1	第1号溝Aj30地点出土遺物	157	第100図-1	Cd12竪穴状遺構実測図	197
第75図-2	第1号溝出土遺物実測図	159	第100図-2	Cd12竪穴状遺構出土遺物実測図	198
第76図	第2号溝実測図	158	第100図-3	遺構なし遺物実測図	199
第77図	第3号溝実測図	161	第101図	時期別集落構成図	207
第78図	第4号溝実測図	161	第102図	掘立柱建物模式図	211
第79図	第5号溝実測図	162	第103図	掘立柱建物配置図	213
第80図-1	第6-1号13号溝実測図	165	第104図	環型土器分類例図	224
第80図-2	第6-2・3号7号9号溝実測図	167	第105図	甕型土器分類例図	239 244
第81図-1	第10号溝実測図	170	第106図	弥生式土器片拓影図	255
第81図-2・3	第10号溝出土遺物実測図	172 173	第107図	時期別遺構配置図	259
第82図	第11号溝実測図	173	第108図	岩手県南部における古代の土器群編年図 (試案)	265
第83図	第12号溝実測図	174	第109図	岩手県南部を中心とした古代竪穴住居変遷図	269
第84図	第6-1号溝12号・15号溝出土遺物実測図	175	第110図	胎土分析試料写真図	284
第85図-1・2	第13号溝出土遺物実測図	177 178	第111-1図	胎土分析結果試料顕微鏡写真	285 294
第86図-1	第14号溝出土遺物実測図	180	第111-10図		
第86図-2	第14号溝・第15号溝実測図	181	第112図	獣骨片写真図	296
第87図	第20号溝実測図	184	第113図	ノモモ種子拡大写真図	297
第88図	第17・19・20号溝出土遺物実測図	184	第114図	炭化材写真図(Df59住)	297
第89図	Dブロック東側溝・溝状遺構実測図	185	第115図	鉄滓・鉄製品X線回折グラフ	300
第90図	第16号溝実測図	188			
第91図	第18号溝実測図	188			
第92図	第21号溝実測図	188			
第93図-1	Bf06溝状遺構実測図	189			
第93図-2	Bf06溝状遺構出土遺物実測図	190			
第94図	Bi53溝状遺構実測図	190			
第95図-1	Cb06溝状遺構実測図	191			
第95図-2	Cb06溝状遺構出土遺物実測図	192			

挟みこみ図面 (遺構配置図)
写真図版……………省略

挿 表 目 次

第1表 Bb30住居跡内ピット計測値一覧表	11	第31-1・2表 D類・ABC類分類基準	223
第2表 Bc68住居跡内ピット計測値一覧表	14	第32表 環型土器の法量・技法等一覧表	225 231
第3表 Bd80住居跡内ピット計測値一覧表	19	第33表 D類分類とその結果	232
第4表 Be50住居跡内ピット計測値一覧表	22	第34表 成形技法と境界組合せ一覧表	233
第5表 Bf30住居跡内ピット計測値一覧表	25	第35表 ABC類坯底部切離し一覧表	235
第6表 Bh03住居跡内ピット計測値一覧表	27	第36表 甕型土器分類基準	238
第7表 Bh77住居跡内ピット計測値一覧表	31	第37表 甕型土器の法量・技法・分類等一覧表	240
第8表 Bi53住居跡内ピット計測値一覧表	37	第38表 甕型土器分類結果遺構毎出土一覧表	247
第9表 Cc53住居跡内ピット計測値一覧表	45	第39表 手捏ね・小型土器一覧表	248
第10表 Cg06住居跡内ピット計測値一覧表	48	第40表 土錘出土一覧表	248
第11表 Cg56住居跡内ピット計測値一覧表	50	第41表 鉄製品出土一覧表	249
第12表 Ci56住居跡内ピット計測値一覧表	59	第42表 その他石製品一覧表	249
第13表 Da21住居跡内ピット計測値一覧表	62	第43表 砥石一覧表	249
第14表 Da56(旧)住居跡内ピット計測値一覧表	70	第44表 紡錘車出土一覧表	250
第15表 Da74住居跡内ピット計測値一覧表	77	第45表 鉢型土器出土一覧表	250
第16表 Dd03住居跡内ピット計測値一覧表	81	第46表 壺型土器出土一覧表	250
第17表 Dg09(旧)住居跡内ピット計測値一覧表	98	第47表 遺構毎伴出遺物分類一覧表	251
第18表 Dj18住居跡内ピット計測値一覧表	106	第48表 県内の江別式土器出土地一覧	256
第19表 Ea50住居跡内ピット計測値一覧表	112	第49表 胎土分析試料一覧表	279
第20表 Ee30住居跡内ピット計測値一覧表	124	第50表 試料分析結果	280 283
第21表 Eg09住居跡内ピット計測値一覧表	127	第51表 土器片蛍光X線分析結果	298
第22表 Ca03掘立柱建物掘り方・柱穴計測値一覧表	133	第52表 鉄製品・鉄滓の定量分析結果	299
第23表 Ca50掘立柱建物掘り方・柱穴計測値一覧表	135	第53表 鉄製品・鉄滓のX線回析法による定性分析 結果	299
第24表 Ce03掘立柱建物掘り方・柱穴計測値一覧表	137	第54表 鉄製品・鉄滓の蛍光X線法による定性分析 結果	299
第25表 Ch53掘立柱建物掘り方・柱穴計測値一覧表	138		
第26表 Da09掘立柱建物掘り方・柱穴計測値一覧表	140		
第27表 Dh12掘立柱建物掘り方・柱穴計測値一覧表	142		
第28表 Cブロックピット群計測値一覧表	152		
第29表 Bf06溝状遺構内ピット計測値一覧表	189		
第30表 竪穴住居跡規模施設等一覧表	209		

序 文

1. 経 過

県内の東北縦貫自動車道建設は、昭和40年11月仙台・盛岡間の基本計画の決定に始まり、昭和43年4月の施行命令によって具体化される。

これによって破壊される埋蔵文化財の取扱いについては、文化庁と日本道路公団の覚書により、岩手県教育委員会がおこなうことになった。

まず、一関・盛岡間の路線予定地内の分布調査が、昭和42年及び43年に実施され、昭和45年2月19日水沢・花巻間40km、同年11月25日一関・胆沢間30km、46年2月10日石鳥谷・盛岡間29kmの路線発表がなされたことに伴い、昭和47年8月～9月に、用地巾50mで現地確認調査、同年10月インターチェンジ及び付帯施設予定地内の現地確認調査等が順次実施され、一関・盛岡間の調査対象遺跡は当初82ヶ所確認された。

これらの破壊される遺跡について、できるだけわしく調査記録し、遺跡のもつ歴史的価値を永く後世に伝えることを目的とし、昭和47年度に北上市・花巻市・金ヶ崎町所在の遺跡から調査が開始され、用地買収、着工順位に従って順次すすめられた。

この間、調査除外としたもの4ヶ所がある。一関市荊又遺跡は過去の開田による破壊の程度が大きく煙滅、一関市松の木遺跡は宅地化による破壊、衣川村榊形陣場跡は所在位置が路線からはずれる、衣川村二枚貝化石層は遺跡としての調査対象としないことなどの理由による。

また、路線変更によって保存されたのが、平泉町伝護摩堂跡である。この遺跡は奥州平泉文化との関連が考えられ、路線発表後に路線内に所在することが確認され、急遽日本道路公団と協議し、路線を西側に変更した。一方、工事直前もしくは工事中に新しく確認追加されたものに、土取場の和賀町梅ノ木Ⅰ～Ⅶ遺跡、路線内では江釣子村下谷地B遺跡・紫波町墳館遺跡および柳田館遺跡がある。

昭和49年6月20日、盛岡・安代間53kmの路線発表があり、この区間のうち、盛岡・西根（松川まで）間が調査対象の日程にくりこまれ、当初、8遺跡が確認されたが、工事中に滝沢村卯遠坂遺跡が発見追加され、更に紫波インターチェンジの誘致新設に関連し、栗田Ⅰ～Ⅲ遺跡が調査対象となる。

以上のように、一関・西根（松川まで）区間の調査対象遺跡数は、除外、新規発見などによる変動を見て来た。このことは、埋蔵文化財保護の基本の一つとして、分布調査の重要性が改めて問われる一面でもある。結局、調査遺跡数は、第1表のような99遺跡、18市町村におよぶものとなった。

調査をすすめる一方、文化庁、日本道路公団との協議によって、前述の伝護摩堂跡を完全保

存したのをはじめ、江釣子村鳩岡崎遺跡の縄文中期の大型穴住居跡の一部分、水沢市石田遺跡では、奈良時代末から平安時代初期に相当する焼失家屋1棟、紫波町上平沢新田遺跡では、平安時代相当の焼失家屋1棟の路線境検出遺構を一部精査の上、それぞれ埋めもどし現地保存をした。

また、江釣子村猫谷地遺跡の古墳1基、紫波町墳館遺跡の墳墓1基、柳田館遺跡・盛岡市太田方八丁遺跡の一部は、施工方法や設計変更等によって可能な限りの保存策をとった。

しかし、本石田遺跡について言及すれば、実際の保存段階に於て、調査担当者と原因者側に意識の不疎通があるなどして、結果的には保存遺跡の活用が困難になった例などもある。したがって、これらの保存遺構や遺跡の管理、活用については、チェック体制を強化するなどして、今後十分に留意しなければならないものであり、それがなされなければ完全な保存策であったとは言い得ない。

昭和47年度に始まった調査は、昭和53年度の紫波町栗田Ⅲ遺跡を最後に終り、現在、整理作業をすすめているが、東北縦貫自動車道建設の具体化以来、事業をすすめるに当って、終始指導と助言をくださった県内外の協力者、および献身的な協力を得た関係市町村教育委員会、学校、関係諸機関、地元作業員の方々をはじめ各位に改めて敬意を表したい。

なお、西根町以北の東北縦貫自動車道関連遺跡は、(財)岩手県埋蔵文化財センターによって調査されることになり、昭和53年から実施されている。

2. 調査の方法について

(1) 調査対象範囲の選定は、遺跡の中で用地内および付帯施設を含む関連部分は、すべて調査対象とした。更に、該当遺跡周辺の分布調査を可能な限り実施することにつとめ、調査地とそれを取りまく遺跡群との関連解釈の一助に資することとした。

(2) 調査対象全域に次のような地区設定をした。

①地区設定のための原点は、日本道路公団測量の路線内中心杭の任意のものに定め、それと他の中心杭の2点間を見通す直線と、原点を通りこれに直交する直線を座標の基準線とした。

②南北の基準線をもとに、30mを1ブロックとし、北から順にA・B・……の記号を付し、これを東西、南北に10等分し3m×3mのグリッドを設定、グリッド名は北から順にa→j、南北基準線から東方へ50・53・56……。西方へ03・06・09……、の記号を付し、これとブロック記号の組合わせで表わした。例えば、Aa03・Aa50のようになる。

(3) 発掘および記録について 発掘調査は絶対にくりかえしの出来ない作業である。特に、緊急調査と言う性格と記録保存を考えると、調査の過程で観察された事項は可能な限り詳細に、しかもすべて客観的データとして記録されねばならないし、記録者の解釈と観察された事実とが混同されぬよう留意しながら①遺構群をひとつのまとまりとして把握すること

文化層が重なっている場合、層序とともにそれぞれの文化層のひろがりを実際に把握すること、更に緊急調査の場合、事後の保存が困難である以上、トレンチによる部分発掘は回避すべきであることからグリッド設定にもとづく平面発掘につとめた。

②原則として3m×3mのグリッドで、調査地における遺物・遺構の分布状況を把握するため、「ちどり」状に人力による粗掘をすることにしたが、結果的に機械力の導入も多かった。遺物・遺構の検出を見た場合、その具体的内容を究明するため必要な範囲の全面発掘を実施した。

③遺構が検出された場合、該当グリッド名を付した。その場合もっとも北西に位置するグリッド名で呼称することを原則とした。精査に当たっては、2分法・4分法による平面発掘に留意し遺構の性格と内部堆積状況・構造・重複等を把握しながら完掘することとした。

④遺物は、原則としてグリッドごとに取り上げ、遺跡記号・出土年月日・出土地点・出土層位を記録し、遺構に直接関係するものや、年代決定の資料となり得るものについては出土レベル、位置を平面図に記録し遺物番号を付して取り上げた。

⑤遺物の出土状況・層位・遺構に関する所見等の記録は実測図・遺構カード・フィールドノートを用い、全体の問題点、進行は調査日誌に記録した。

⑥写真記録は35mm版モノクロ、カラー・6×7cm版モノクロを主として用いた。

(4) 実測方法 ①発掘された遺構の実測は、原則として遺り方実測を用い、平板実測は補助にとどめた。②原図の縮尺は1/20に統一したが、遺構・遺物の細部については、必要に応じて1/10縮尺を採用した。

(5) 関連科学との連携について 総合的な見地からの記録作業という意味で、考古学のみならず関連科学の研究者、とくに自然科学系統の分野との連携に留意し、調査現場の実見と見解を求めることにつとめた。

3. 整理について

整理にあたっては調査の性格（「緊急調査」と「記録保存」）を十分に考慮した。したがって可能な限り詳細な記録を作成することと、その公開を主目的とした。なおいわゆる「行政調査（とくに緊急調査）」と「学術調査」の異同を、その「現場」に投入された技術、方法の次元に還元して論ずるのは妥当ではない。「緊急調査」の「現場・調査」の位置づけについては、本課にも若干の反省点がある。

(1) いわゆる「珍品主義」・「一番主義」を排し、得た資料のすべてを観察し、それぞれに応じた記録を作成することを旨とした。各調査地（「遺跡」）・調査資料の正当な評価の資料を提示するためであるし、それが「記録保存」の趣旨にも連なるからである。その結果として記述が若干繁雑になった。ただし実際上は、調査担当者との設定仮説が整理担当者にも十分に伝わっていないなどのことも目立ち、満足のいく整理を必ずしもしえなかった調査地もまた多い。

遺憾である。また本書に提示した諸仮説、見解は本課の統一見解ではなく、整理担当者のそれである。具体的には ①観察事項の正確な伝達 ②仮説の提示とその展開、吟味 ③新規の仮説、問題点の提起 ④新しい資料操作法の提示などを旨としたが、前述のように必ずしも十分には実施できなかった。

(2) 調査地はそれのみ単独での評価は避け、一定の地域内とりわけ他の「遺跡」との関係重視して解釈・評価するように努めた。『周辺の遺跡』の項がやや繁雑にわたっているのはその為である。これは(1)の実践をめざすのみならず遺構存在を遺跡成立の絶対条件視する見解への反論のためにも必要であり、とりわけ埋蔵文化財保護にはきわめて重要な観点である。

(3) 調査時と同様に「関連諸科学・諸技術との連携」に留意した。(1)でのべた目的を満足させる為に必要不可欠であり、さらにはその保存処理・各種データの蓄積・その公開も本課に課せられた責務だからである。今後の継続実施を考慮し、可能なものは努めて県内の機関・公所・その他に連携ないし委託先を求めた。具体的実施例は、年代測定（カーボンデイトーピング・熱ルミネッセンス法他）・材質鑑定（石材他）・樹種鑑定（木器・木材・柱脚他）・種子鑑定（炭化米・雑穀類・雑草類他）・花粉分析・人骨（歯）鑑定・獣骨（家畜を含む）鑑定・組成分析（釉薬・土器胎土・火山灰他）・燐分析・地質学的諸分析等にわたるが、今後も新分野を加える必要がある。保存処理は木器・木材・柱脚類、鉄器類を中心に実施しているが、これも今後さらに新分野のものについて実施する必要がある。地質学的知見・教示は(2)などとの関連で、調査地および周辺の「遺跡」の立地・占地に関して、また遺物と出土層（とくに火山灰層）との関連に留意して援用した。大規模調査地については航空写真・ステレオカメラにもとづく作図を採用した。

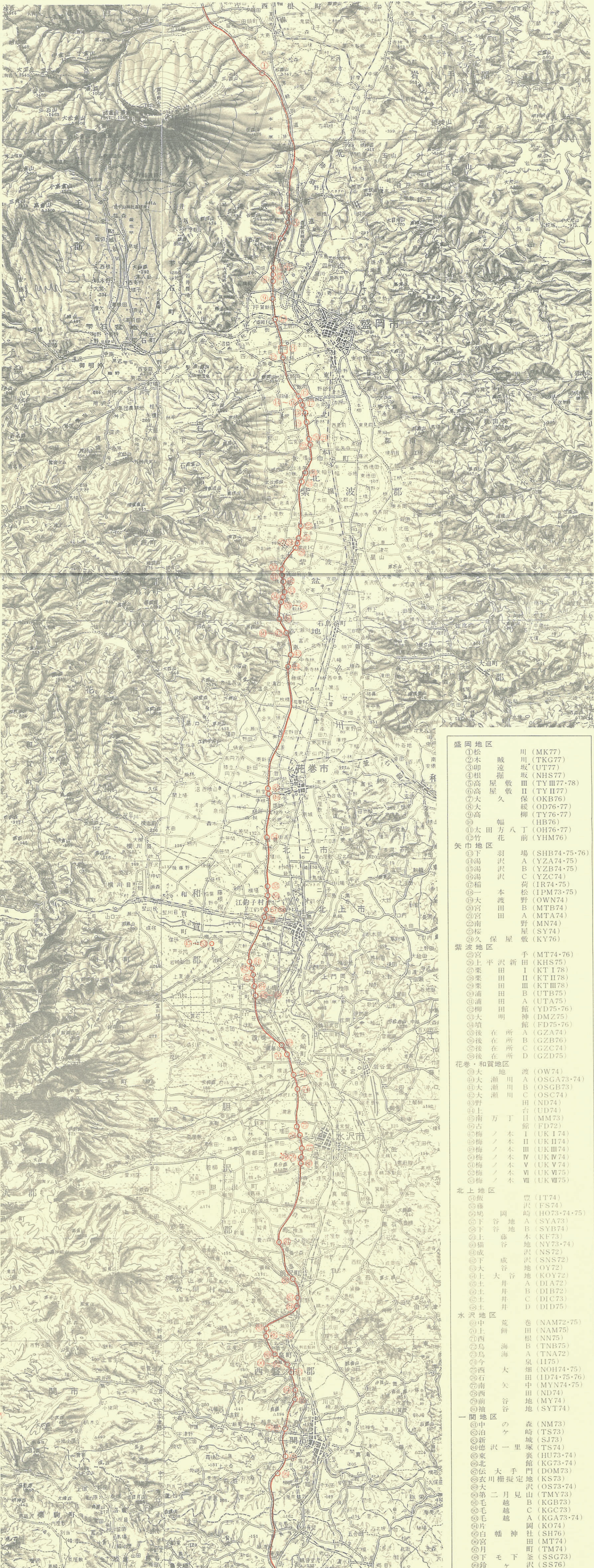
(4) すべての対象（遺構・遺物・「遺跡」）について、技法的分析に加え組みあわせ重視の観点をも加えてある。

(5) 以上の技術的基準・指標として『出土遺物の整理について』（昭和47年作成のち一部修正）を作成し大略それに準拠した整理を実施した。細部は省略するが、大枠は①観察事項を正確に伝えるための作図法他の技術的部門、②文章表現上の留意点とからなる。後者については観察事項と解釈の峻別・不明事項の明示などがとくに求められている。

(6) 得た膨大な資料の公開は、別途計画のもとに実施されるであろう。

東北自動車道関係調査遺跡一覧

地区	市町村名	No.	遺跡名	調査年度	地区	市町村名	No.	遺跡名	調査年度	地区	市町村名	No.	遺跡名	調査年度	地区	市町村名	No.	遺跡名	調査年度	地区	市町村名	No.	遺跡名	調査年度																																	
盛	西根町 滝沢村	1	松川	52	柴	和賀町	26	上平沢新田	50	賀	北上市	51	梅ノ木 V	49	沢	胆沢町	76	石田	49・50・51	関	一関市	77	南矢中	49・50	前谷地	78	西田	49	袖谷地	79	前谷地	49	80	袖谷地	49																						
		2	木賊川	52			27	栗田 I	53			52	梅ノ木 VI	50			56	鳩岡崎	48・49・50			81	中の森	48																																	
		3	卯遠坂	52			28	栗田 II	53			29	栗田 III	53			30	浦田 B	50			57	下谷地 A	48		82	泊ヶ崎	48		83	新城	48		84	徳沢一里塚	49	85	東真	48・49	86	北館	48・49	87	伝大手門跡	48	88	衣川棚蔵跡地	48									
		4	根掘坂	52			29	栗田 III	53			31	浦田 A	50			32	柳田館	50・51			58	下谷地 B	49		59	上藤木	48		60	猫谷地	48・49		61	成沢	47	62	下成沢	47	63	大谷地	47	64	上大谷地	47	65	土井 A	47	66	土井 B	47	67	土井 C	48	68	土井 D	50
		5	高屋敷 III	52・53			30	浦田 B	50			33	大明神	50			34	墳館	50・51			35	御在所 A	49		36	御在所 B	51		37	御在所 C	49		38	御在所 D	50	69	中荒巻	47・50	70	上餅田	50	71	西根	50	72	鳥海 B	50	73	鳥海 A	47	74	今泉	50	75	西大畑	49・50
岡	盛岡市	6	高屋敷 II	52	波	石鳥谷町	39	大地渡	49	花	北上市	69	中荒巻	47・50	上	江釣子村	56	鳩岡崎	48・49・50	水	金ヶ崎町	70	上餅田	50	花巻市	44	上台	49	和	和賀町	47	古館	47	49	48	南万丁目	48	49	49	梅ノ木 I	49	49	49	梅ノ木 II	49	49	49	梅ノ木 III	49	49	49	梅ノ木 IV	49				
		7	大久保	51			40	大瀬川 A	48・49			41	大瀬川 B	48			42	大瀬川 C	49			43	野田	48		44	上台	49			45	南万丁目	48		46	古館	47		47	梅ノ木 I	49		48	梅ノ木 II	49		49	梅ノ木 III	49		50	梅ノ木 IV	49				
		8	大緩	51・52			41	大瀬川 B	48			42	大瀬川 C	49			43	野田	48			44	上台	49		45	南万丁目	48			46	古館	47		47	梅ノ木 I	49		48	梅ノ木 II	49		49	梅ノ木 III	49		50	梅ノ木 IV	49								
		9	高柳	51・52			42	大瀬川 C	49			43	野田	48			44	上台	49			45	南万丁目	48		46	古館	47			47	梅ノ木 I	49		48	梅ノ木 II	49		49	梅ノ木 III	49		50	梅ノ木 IV	49												
		10	幅柳	51			43	野田	48			44	上台	49			45	南万丁目	48			46	古館	47		47	梅ノ木 I	49			48	梅ノ木 II	49		49	梅ノ木 III	49		50	梅ノ木 IV	49																
矢	郡南村	11	太田方八丁	51・52	和	和賀町	47	梅ノ木 I	49	和	和賀町	47	古館	47	和	和賀町	47	梅ノ木 I	49	和	和賀町	47	古館	47	和	和賀町	47	梅ノ木 I	49	和	和賀町	47	梅ノ木 II	49	和	和賀町	47	梅ノ木 III	49	和	和賀町	47	梅ノ木 IV	49													
		12	竹花前	51			48	梅ノ木 II	49			49	梅ノ木 III	49			50	梅ノ木 IV	49																																						
		13	下羽場	49・50・51			49	49	49			49																																													
		14	湯沢 A	49・50			49	49	49																																																
		15	湯沢 B	49・50			49	49	49																																																
巾	矢巾町	16	湯沢 C	49	和	和賀町	47	梅ノ木 I	49	和	和賀町	47	古館	47	和	和賀町	47	梅ノ木 I	49	和	和賀町	47	古館	47	和	和賀町	47	梅ノ木 II	49	和	和賀町	47	梅ノ木 III	49	和	和賀町	47	梅ノ木 IV	49																		
		17	稲荷	49・50			48	48	48																																																
		18	一本松	48・50			48	48	48																																																
		19	大渡野	49			49	49	49																																																
		20	宮田 A	49			49	49	49																																																
柴波町	柴波町	21	宮田 B	49	和	和賀町	47	梅ノ木 I	49	和	和賀町	47	古館	47	和	和賀町	47	梅ノ木 I	49	和	和賀町	47	古館	47	和	和賀町	47	梅ノ木 II	49	和	和賀町	47	梅ノ木 III	49	和	和賀町	47	梅ノ木 IV	49																		
		22	南野	49			49	49	49																																																
		23	桜屋	49			49	49	49																																																
		24	久保屋敷	51			49	49	49																																																
		25	宮手	49・51			49	49	49																																																



盛岡地区	①松川	川 (MK77)
	②根	坂 (TKG77)
	③根	坂 (UT77)
	④高	敷 (NHS77)
	⑤高	敷 (TY III77-78)
	⑥高	敷 (TY II77)
	⑦高	敷 (OKB76)
	⑧高	敷 (OD76-77)
	⑨高	敷 (TY76-77)
	⑩太田	八丁 (HB76)
	⑪太田	八丁 (OH76-77)
	⑫太田	八丁 (YHM76)
矢野地区	⑬下湯	場 (SHB74-75-76)
	⑭下湯	場 (YZA74-75)
	⑮下湯	場 (YZB74-75)
	⑯下湯	場 (YZC74)
	⑰下湯	場 (IR74-75)
	⑱下湯	場 (IPM73-75)
	⑲大宮	野 (OWN74)
	⑳大宮	野 (MTB74)
	㉑大宮	野 (MTA74)
	㉒大宮	野 (MN74)
	㉓大宮	野 (SY74)
	㉔大宮	野 (KY76)
紫波地区	㉕上平	新田 (MT74-76)
	㉖上平	新田 (KHS75)
	㉗上平	新田 (KT I78)
	㉘上平	新田 (KT II78)
	㉙上平	新田 (KT III78)
	㉚上平	新田 (UTB75)
	㉛上平	新田 (UTA75)
	㉜上平	新田 (YD75-76)
	㉝上平	新田 (DMZ75)
	㉞上平	新田 (FD75-76)
	㉟上平	新田 (GZA74)
	㊱上平	新田 (GZB76)
	㊲上平	新田 (GZC74)
	㊳上平	新田 (GZD75)
花巻・和賀地区	㊴大	渡 (OW74)
	㊵大	渡 (OSGA73-74)
	㊶大	渡 (OSGB73)
	㊷大	渡 (OSC74)
	㊸大	渡 (ND74)
	㊹大	渡 (UD74)
	㊺大	渡 (MM73)
	㊻大	渡 (FD72)
	㊼大	渡 (UK I74)
	㊽大	渡 (UK II74)
	㊾大	渡 (UK III74)
	㊿大	渡 (UK IV74)
	㊻大	渡 (UK V74)
	㊼大	渡 (UK VI75)
	㊽大	渡 (UK VII75)
北上地区	㊾飯	豊 (IT74)
	㊿飯	豊 (FS74)
	㊻飯	豊 (HO73-74-75)
	㊼飯	豊 (SYA73)
	㊽飯	豊 (SYB74)
	㊾飯	豊 (KF73)
	㊿飯	豊 (NY73-74)
	㊻飯	豊 (NS72)
	㊼飯	豊 (SNS72)
	㊽飯	豊 (OY72)
	㊾飯	豊 (ROY72)
	㊿飯	豊 (DIA72)
	㊻飯	豊 (DIB72)
	㊼飯	豊 (DIC73)
	㊽飯	豊 (DID75)
水沢地区	㊾中	荒瀬 (NAM72-75)
	㊿中	荒瀬 (NAM75)
	㊻中	荒瀬 (NN75)
	㊼中	荒瀬 (TNB75)
	㊽中	荒瀬 (TNA72)
	㊾中	荒瀬 (II75)
	㊿中	荒瀬 (NOH74-75)
	㊻中	荒瀬 (ID74-75-76)
	㊼中	荒瀬 (MYN74-75)
	㊽中	荒瀬 (ND74)
	㊾中	荒瀬 (MY74)
	㊿中	荒瀬 (SY74)
一関地区	㊾中	森崎 (NM73)
	㊿中	森崎 (TS73)
	㊻中	森崎 (SJ73)
	㊼中	森崎 (TS74)
	㊽中	森崎 (HU73-74)
	㊾中	森崎 (KG73-74)
	㊿中	森崎 (DOM73)
	㊻中	森崎 (KS73)
	㊼中	森崎 (OS73-74)
	㊽中	森崎 (TMY73)
	㊾中	森崎 (KGB73)
	㊿中	森崎 (KGC73)
	㊻中	森崎 (KGA73-74)
	㊼中	森崎 (KO74)
	㊽中	森崎 (SH76)
	㊾中	森崎 (MT74)
	㊿中	森崎 (TM74)
	㊻中	森崎 (SSG73)
	㊼中	森崎 (SS76)

第3図 岩手県における東北縦貫自動車関係遺跡分布図

1:200,000



本 文



第2図 石田遺跡地形図

水沢・金ヶ崎地区概観

1. 地形概観

本地域の地形は他地域と同様に、中央を南流する北上川と、それに沿って形成された北上川河岸低地（河谷平野）により東西に二分される。東岸では北上山地西縁山麓に属する開析の進んだ丘陵性の山地（標高300～400m）が優越し、段丘地形の発達は、これを開析する北上川支流の谷に沿って若干見られる程度である。

西岸においては、まず奥羽山脈東縁部にあたる山地とその麓部の丘陵地が西・南方にひかえる。山地・丘陵地東縁外方には広大な段丘地形が模式的に発達する。この東西岸における地形発達の対照性は顕著なものである。山地に源を發し東流する諸河川（和賀川・夏油川・黒沢川・胆沢川他）により数地区に区分されているが、以下には二地区に分けて、主に段丘地形について記す。

(1) 花巻—金ヶ崎間

ここに発達する主な段丘は高位から順に、西根段丘・村崎野段丘・金ヶ崎段丘である。西方山地はこの地域でもっとも西に遠のき、段丘発達区の中は北上川全流域中でもっとも広い。和賀川・胆沢川間では山地東縁部に丘陵性台地が続き、その高さは段丘面群との比高約50～100mである。この台地は古期段丘群に含まれる可能性がある。

山麓部から東方へ扇状地状に広がる金ヶ崎段丘と、その間に取り残された形でかなりの広面積を占める村崎野段丘が優越し、両者でこの地域の大半を占める。西根段丘は六原付近において金ヶ崎段丘にとり囲まれて残片的に分布する他、西方の山地縁部に発達する。

西根段丘はかなり開析されており、頂面縁部は丸味をおびる。傾斜は村崎野段丘よりは急であるが、金ヶ崎面よりは緩い。関東の多摩段丘相当と考えられている。前沢火山灰と黒沢尻火山灰がのる。

村崎野段丘は比較的新鮮な面を保ち、かつもっとも傾斜が緩やかである。黒沢尻火山灰がのる。なお豊沢川～和賀川間のこの面上の飯豊森・飛勢森は、第三系に属する安山岩および安山岩質凝灰角礫岩・凝灰岩（稲瀬安山岩）よりなる残丘である。関東の下末吉段丘に相当し、Riss-Würm間氷期に相当しよう。最低2期に細分可能らしい。

金ヶ崎段丘は西方山地より東方に広がる扇状地状の段丘面を有し、その内に高位段丘を残丘状にとり込んでいるが、面の傾斜は村崎野段丘面よりも急であり、内方では村崎野面より高く構成層がこれを被う。扇状地形は寒沢川・尻平川・夏油川・黒沢川などが山地を離れる部分を頂点として広がり、これらの河川よりはるかに広い流域をもつ和賀川沿いでは著しい扇状地形を示さない。これは火山灰に被われていない。傾斜が急で奥地にまで入り込んで分布することか

ら、最寒期たる Würm 氷期に由来するものと思われる。これも 2 期に細分できるらしい。

この地域の河川もすべて北上川水系に属す。北上川以外の諸河川として、和賀川・黒沢川・永沢川・胆沢川・口内川・広瀬川・人首川・伊手川などがある。北上川沿いの河岸低地および段丘上における水系は非常に単純に東西走の姿を呈すのみである。また人工的水系パターンも多い。丘陵地においては若干複雑な形も見られるが省略する。

(2) 金ヶ崎以南

胆沢川～衣川（北股川）間には、北上川流域最大の扇状地形が発達し、一般に胆沢扇状地といわれている。段丘群は約 7 つに細別されるが、大別すると高位から順に一首坂段丘・胆沢段丘・水沢段丘となり、既述の西根・村崎野・金ヶ崎の各段丘に相当する。一首坂段丘にはさらに古期のものが含まれている可能性もある。これらの段丘面群は市野々付近を頂点として東方に展開するが、各段丘は南から北へ順次新規のものがならぶ。もっとも広範囲を占めるものは胆沢段丘である。この地域では、一首坂段丘の残丘と思われるものが胆沢段丘上に 2 ヶ所（見分森・養ヶ森）に存在する他は、段丘面群の交叉は殆ど見られない。

一首坂段丘は衣川・北股川北岸に沿って分布し、段丘面の開析が進んでいる。一首坂火山灰層をのせる。背面には、北股川・南股川合流点の北方に急傾斜部がある。

胆沢段丘は扇央～扇端部においてさらに 4 段に細分され、高位から順に上野原・横道・堀切・福原の各段丘と呼ぶ。配列は同様順で南から北である。高位の 2 段と堀切段丘の一部は西方へ収れんし、福原段丘は堀切段丘に収れんし、さらに西方で堀切段丘が分岐する。福原段丘では黒沢尻火山灰がのり、その下半に村崎野浮石が見られる。

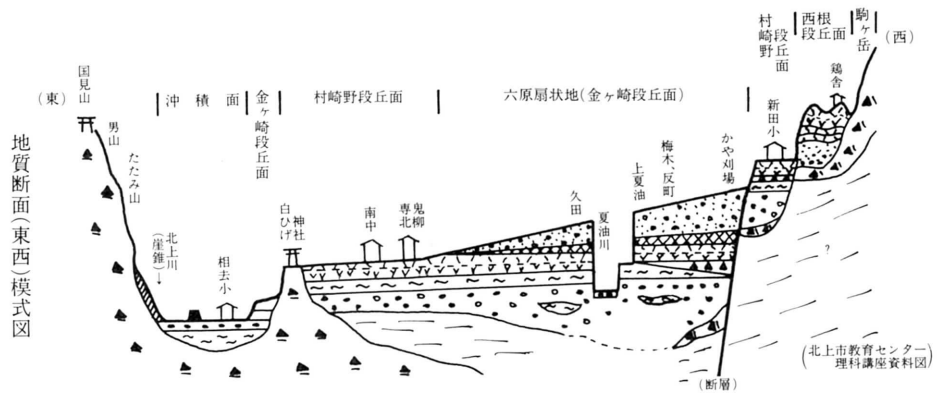
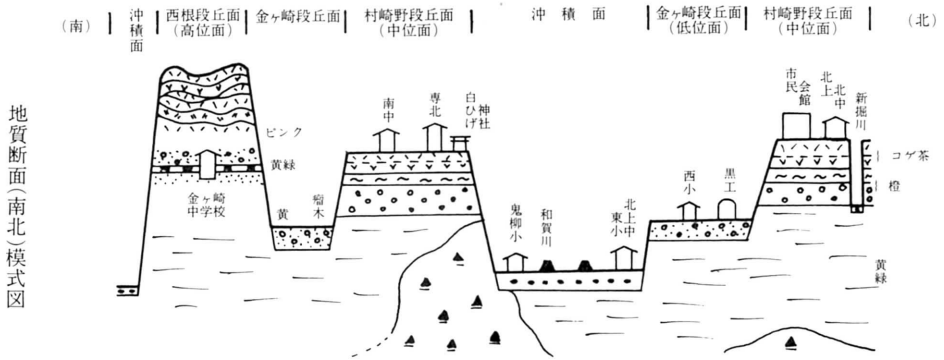
上野原・横道・堀切の各段丘には、黒沢尻火山灰と、その下位に前沢火山灰がのる。

水沢段丘は胆沢川南岸および北上川沿いによく発達し、新鮮な面を保つ。水沢市北部では河岸低地との比高約 10m であるが、下流方へ次第に比高を減じ、段丘崖も若干不明瞭となる。なお、北常盤から西北方に向かって大規模な沖積面（凹部）が走り南北に二分される形をとる。

本地域の流水も北上川水系に属する。北上川に合流する諸河川はいずれも大略東西走のものである。東岸の支流は荒川（人首川と伊手川の合したもの）、大田代川、兵土沢その他の丘陵地に発する小規模なものである。西岸には胆沢川、永沢川、太郎ヶ沢、岩堰川、白鳥川、北股川・南股川の合した衣川などがある。人工的改変をうけていることにもよるが、胆沢扇状地上の水系は単純な形態をとっている。

大略以上が本地域の段丘を中心とした地形のあらましである。各段丘面はその面上の小河川によりそれぞれ開析され、小規模な沖積地・自然堤防その他を形成しており、一様な景観を示すものではない。

— 地区概観 —



北上区域 層序区分

(北上市教育センター理科講座資料及び地質学ハンドブック「築地書館」より)

年代区分		(10 ⁴ 年前)	平坦面	文化階梯	地 層	凡 例
新 生 紀	第 四 世	沖積世	1.0	沖積面	新石器 新期河川氾濫堆積物 崩壊、風化碎屑物	砂・礫
		洪 積 世	2.9	後期 低位段丘 (金ヶ崎面)	後期旧石器 中期 "	段丘堆積物(河成層)
	15.0		中 期中位段丘 (村崎野面)	前期旧石器	(火山成層) " (河成層) " (河成層)	細粒火山灰 軽石 火山角礫岩の二次堆積物
	80.0		前期 高位段丘 (西根面)	早期旧石器	(河成層) " (河成層) (火山成層)	砂、礫、粘土(飯豊礫層) 細粒火山灰 砂、礫 火山・凝灰角礫岩
	200.0		前期	早期旧石器	(火山成層)	火山・凝灰角礫岩
	第 三 紀	鮮新世	真滝層 金沢層 本畑層	東部丘陵地、北上川沿い 南西部丘陵地、和賀・夏油川沿い	粗粒・凝灰質砂岩 {凝灰質頁岩、凝灰岩、亜炭、礫岩、安山岩質集塊岩} 挟在	粘土(泥岩) 砂 (岩) シルト(岩)
		中新世	稲瀬層	東部丘陵・小起伏山地	安山岩質角礫岩	火山・凝灰角礫岩
	中生代	白亜紀			花崗閃緑岩(貫入岩)	

最後に北上川河岸低地を見ておく。ここにも他と同様に自然堤防・後背湿地・旧河道・砂洲・砂礫堆その他が形成されており、一様な低平地では決してない。

以上の段丘・自然堤防などは後述のように集落立地と密接な関係を有している。

2. 遺跡の立地について（第1図）

遺跡の立地と地形との関係（とりわけ胆沢扇状地におけるそれ）については別にふれるので、ここでは概観するにとどめる。既述の如くにこの地域は段丘群の発達が顕著であり、それと遺跡立地は密接に関係している。

確実例の多い縄文時代からみると、北上川河岸低地（沖積地）以外のあらゆる地域を占地しているといつてよい。勿論段丘面上に見られる小規模な水系と密接に関連しながら分布することはいうまでもない。伊藤鉄夫氏の教示によると縄文時代内の時期による立地の変遷がある。それは晩期などより新期になればより低位部分へ立地する傾向下にあるというものである。胆沢扇状地の扇頂部たる宮沢原（中位段丘上）周辺においても、扇端部たる低位段丘の崖縁部においても共通する。前者においては、より高位置に見られる晩期遺跡は低位置のそれに比しより小規模化する、という形をも伴っている。縄文時代晩期には河川沿いの自然堤防上を占地するなど「低地進出」傾向が顕著なことは既によく知られた現象である（本地域の里槍など多数の例）が、それが本地域の高位部においてはこのような具体相を示すことになる。

弥生時代については数類型ある。常盤遺跡などの河岸低地上の微高地を占地するもの、杉の堂・橋本、胆沢町角塚古墳周辺など低位段丘上に立地するものである。しかしこの両者はいずれもその前堤として規模の大小はあるものの沖積地の存在があると思われ、その点で共通性がある。なおこの立地原則は、古墳時代・奈良時代前半と共通するものである。この他に山腹などを占地する例もあり、この時代についてはその生業的側面を単一の視点から検討するのみでは不十分なことは明らかである。

なお河東の江刺地方においても、河岸低地の微高地（自然堤防上）への占地が見られ、それは住居跡を伴うものであった可能性が高い。伴出土器に靱圧痕も見られることから稲作を行っていた可能性大のものもある。常盤例に共通しよう。

古墳時代についてもその類例が増加しつつある。その立地は低位段丘面上形成された小規模な自然堤防様の微高地、開析されて形成された崖状地形の縁辺部、あるいは段丘崖縁部などに限定される。角塚付近では化石河床の合流も見られ、沖積地の発達がある。高山・西大畑・面塚・膳性などがそれらに該当し、少なくとも前三者においては、その眼前に泥炭層の発達も想定しうほどの湿地帯をひかえる、という共通点をもつ。今後は遺跡周辺の微地形をさらに検討し、存在したであろう小規模な水系との関係などを確認する必要がある。

7世紀代～8世紀初期（奈良時代初期）までについては、基本的には類似した占地を示し、西大畑・膳性・面塚などにおいては前代のものと重複して存在する。集落規模は前代に比し若干大きくなるものの、その占地に変化はほとんどない。これが生産力のいかなる状況を反映するかは検討に値する課題である。

8世紀前半（奈良時代前半）のものも大略共通する占地を示す。ただし玉貫のようにより低位の沖積段丘上を占地する例もある。ただしこの利用状況は、古代についてはこの時期の単一利用のみが行なわれている。石田例のように崖縁辺からより内部への進出が見られる場合もある。

8世紀後半（奈良時代後半）も基本的には同一の占地を示すが、前述の崖線部より若干内部も占地例がさらに増加する。さらに胆沢町小十文字のように中位段丘下段の福原段丘面上にのるものも出現する。占地上でもかなり変化が始まりつつあるといえよう。

以上のように7世紀～8世紀の占地は基本的には低位段丘面上にのる場合が多いが、現状での遺跡分布は水沢段丘の北半部（福原段丘の崖線の東西延長線上より北）に限定され、それ以南には稀である。同一段丘面上ではあるが、水系の発達がまったく異なる様相を示すことによるのであろうか(注)。また河東の江刺地方においては、奈良時代後半（末期）ごろに既述の弥生時代と同一の微高地上へも進出し始める。ここにおいても何らかの変化のきざしが見えはじめたといつてよいのであろう。

平安時代になると占地の中は一気に拡大し、従来の低位段丘面に加え、河岸低地上の自然堤防上、（低位の）水沢段丘の南半の自然堤防上、中位段丘面上へも進出しはじめる。先行する時期の集落の痕跡を何ら示さない例も多い。また前代から継続してきた集落の中にも大溝などを伴う例が出てくる。したがって、この期の集落の営なまれ方には、かなり政治的なもの（計画村落）があることが窺われる。

以降の時代については省略するが、中・近世の城館は、陸上・水上交通の要地に設けられることはいうまでもない。

再度古代についてふれてまとめとする。古代も比較的初期、とりわけ古墳時代に関連する遺跡・遺物が（北上河西については現流路よりかなり）西に偏した部分にも検出されている点に留意すべきであろう。角塚そのものの位置のみならず、金ヶ崎町高谷野原の須恵器の存在、同館山遺跡における円筒殖輪の出土などからすると、該期における重要性が反映していると考えられるのである。諸先学により、古代の交通路はより奥羽山脈寄りなることが既に述べられてきたが、それをさらに確認する意味でもこの地域が注意されてよい。それら単に南北の交通路のみならず東西の交通路にもなりうる地点だからである。

注 林前遺跡。岩手県水沢市文化財報告書 第3集 水沢市教育委員会 1979.3